

創新教育センターを新設

2017(平成29)年4月

「イノベーションプラザ」のはじまりは2004(平成16)年4月までさかのぼる。工学部(当時)が1999(平成11)年度から推進してきた新工学教育検討委員会の活動成果に基づき企画した『『進取の気風』を育む創造性教育の推進』が2003(平成15)年度の文部科学省の特色ある大学教育支援プログラム(通称特色GP)に採択され、全学組織の「徳島大学創成学習開発センター」として開設された。発足当時のセンターの目的は、創造性教育手法および学習達成度評価法の開発とそれらの成果発信であり、特に学部学生のための学習法を開発目標の重点として捉えていた。2006(平成18)年度に特色GPの支援が終了したことに伴い、2007(平成19)年度から工学部(当時)の所轄となり、「工学部創成学習開発センター」となった。それ以後、10年間、自主的なものづくり教育を基礎に創造性育成教育の支援を主な目的として活動してきた。2017(平成29)年度に再び所轄が工学部から全学へと移り、名称も「創新教育センター」となった。

となったが、さらに2019(平成31)年4月1日、所轄が全学に新設された高等教育研究センター学修支援部門創新教育推進班に移り、名称も「イノベーションプラザ」となった。

イノベーションプラザの理念は「創造」「自主」「共創」であり、今までにない新しいアイデアを生み出し、社会の様々な課題を解決できる真のイノベーション人材を育成することを目的としている。

「イノベーションデザイン担当」は、イノベーションの基盤である「課題の探索と解決のための新規アイデア創出」を、「イノベーション創成担当」は、学生の自主・共創の精神を養成し、学部学科の分野を横断する自主的なプロジェクト活動を、「社会実装担当」は、学生生活から生まれたアイデアの実社会への実装に向けた取組みを、それぞれ支援しており、これらの担当を通して、アイデア創出から自主的プロジェクト活動による実践活動、そして、社会実装までの一貫したイノベーション教育を目指している。

